



知床森林生態系保全センター

今回は、数ある会議の中から「河川工作物アドバイザー会議（河川APC）」における課題や取り組みを紹介いたします。

この会議は知床世界自然遺産地域科学委員会の下に、急務の課題に対応するため設置されたものです。委員（研究者などの専門家）、関係行政機関、地元自治体、事務局から成り、北海道森林管理局は事務局として会議の運営等を行っています。年に二回程度開催されます。

### 《課題》

この会議は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の世界遺産委員会において指摘された事項のうち、「世界遺産地域内の河川をより自然に近い形にすること」という課題を扱っています。

具体的には、河川の流れの変化やサケ科魚類の遡上と産卵を妨げないよう、ダムと橋を改良するか撤去するよう求められています。

### 《取り組み》

まず、ダムについては、ダム的一部分を取り除いて改良することを検討しています。会議では、取り除く位置や手法等を議論しています。ダムには、土砂流出を防ぐなどの防災機能があります。ダムの防災機能を維持しつつ、自然に近い形に戻すことを目指しています。



川を遡上するカラフトマス

しかし、改良工事には時間がかかります。そこで、応急措置として、ダムの下流に石を積むことで、魚が遡上しやすい環境を作りました。

橋については、橋の代わりに「河床路（かしょうろ）」を導入することが案の一つとなっています。これは、河川の浅瀬を車両が通行するものです。橋があると、河川



ダムと石積み

の形が自然に変化することを妨げてしまったため、このような手法を検討しています。どちらも検討段階であり、これからも試行を重ねて、より良い方法を議論して参ります。

### 《地域の方々とともに》

なぜ、橋を撤去するだけではなく、代わりが必要なので

でしょうか。それは、橋を利用する地元の方々がいるからです。知床が世界遺産になるずっと前から、知床の自然と共存し、生活しています。こうした地域の方々を理解して納得できるよう、丁寧に説明していくことも大切な仕事です。



ルシャ川に架かる橋

これからも、多くの方々と共に協力しながら、知床の自然をより良い形で保全するために尽力して参ります。